

# 令和元年度 調布市立富士見台小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学 力 向 上	<p>○校内研究(道徳科)において、主体的・対話的な授業を重視し、『考え、議論する道徳』の授業づくりをテーマに掲げ、研究を進めた。児童が自分事として主体的に課題を捉え、考えられるようにするための発問の吟味や効果的に教材を提示する方法等、年間7回の研究授業を通して学び、授業力を向上させることができた。</p> <p>○学びの基礎作りとして「学習＆生活のルール」を全校で共有し、児童への指導を行った。どの学年でも同様の指導が行われることで、学習規律の定着がスムーズに図られ、学習内容の指導に一層注力できるようになった。</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」の結果より ・国語は全国平均と同等、算数は全国平均を大きく上回る結果であった。低学年算数での少人数指導や3年生以上の算数少数習熟度別指導で個に応じた指導を進めていることが、基礎基本の定着につながっていると考えられる。</p> <p>○都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果より ・国語・社会・算数・理科のすべての教科において都の平均を上回った。観点別の結果では、特に国語の「思考・判断・表現」「読む」、理科の「技能」が都の平均を7ポイント以上大きく上回った。</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」の「児童質問紙」の結果より ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童は6割に満たなかったことが分かった。今後更に授業改善に努めていく必要がある。</p>	<p>○学校関係者アンケート(保護者)結果(肯定的評価)は、以下の通りであった。 ・「児童に、基礎・基本となる学力や技能を身に付け、「わかった」や「できた」という達成感を味わわせている。」93% ・「児童に、時と場に応じた言葉遣いを身に付けさせ、言葉による表現を大切にしながら生活させている。」85% ・「算数の授業で習熟度別による指導は学習効果があると思う。」88%</p> <p>○関係者評価委員会では「コミュニケーションの基礎となる語彙を増やしていくことが必要である。」「保護者を含めた周囲の大人の言葉遣いが子供に影響を及ぼす」とのご意見をいただいた。児童に豊かな言葉を身に付けさせるための手だてを工夫していく必要がある。</p>	<p>○全面实施となる学習指導要領の趣旨を授業に反映させるべく校内研究・研修を進め、授業力向上に努める。</p> <p>○読書活動の更なる推進等、語彙を豊かにしていく取組を考えるとともに、教員自身も言語環境の一要素であることを再確認し、指導に当たっていく。また、言葉遣いについて教職員間で共通認識をもち、学習場面と生活場面を併せて指導し、適切な表現で自分の考えや思いを伝えられる児童を育成していく。</p> <p>○地域の教育力を活用し、個に応じた指導等を充実させる。</p> <p>○カリキュラム・マネジメントを充実させ、地域の自然・人材等を活用した体験的学習を計画的に実施していく。</p>	A
健 全 育 成	<p>○特別支援教室専門員、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、担任が、児童個々の「困り感」に対して適切な支援をするべく密に連携することで、個に応じた支援・指導の充実を図ることができた。</p> <p>○かいわ学級(知的固定学級)児童との交流学習やたてわり班活動等による異学年交流を計画的に実施できたことにより、多様性への理解促進及び自己肯定感の向上が図られた。</p> <p>○食物アレルギー対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行い、正しい知識を児童に身に付けさせるとともに、教職員が危機管理意識を高度に保ちながら指導に当たり、安全に給食指導を行うことができた。</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」の「児童質問紙」の結果より ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対し「当てはまる」と回答した児童は、都平均を4.3ポイント、全国平均を1.4ポイント上回っており、健全な規範意識が育成されていると考えられる。 ・「自分にはよいところがあると思う」との問いに対する肯定的回答が、全国・都の平均を大きく上回る86.4%となっており、自己肯定感が育まれていることがわかる。 ・「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」との問いに対する肯定的回答は、全国及び都の平均を下回っており、6割に届かなかったことは課題である。</p>	<p>○学校関係者アンケート(保護者)結果(肯定的評価)は、以下の通りであった。 ・「児童は学校に友達がいり、日常生活を楽しみにしながら学校に来ている。」96% ・「児童に、周囲から認められたり、褒められたりする経験をさせている。」94% ・「児童に、きまりや約束を守る意識をもち、あいさつをしたり、時間を守ったりするなどの基本的な生活習慣を定着させている。」88% ・「児童の安全・安心な環境を整えるために、校内施設や設備等を安全に保とうとしたり、児童に安全に関する知識や実践力を身に付けさせたりしている。」90% 教員が「褒める・認める・価値付ける」言葉を工夫し、一人一人の良さを引き出す努力を重ね、児童の自己肯定感を高める教育の充実に取り組んでいることが、評価につながっているものとする。</p> <p>○関係者評価委員会では、「今の子供たちは外で遊ぶ子が少なくなり、様子が見えにくくなっている。地域の行事に参加しない子たちが心配だ。」「失敗して身に付く面があると思うが、今の子育てではそれが許されないような風潮があることが心配。」「といった意見をいただいた。子供たち一人一人を多面的に見取っていくよう、組織的な対応に一層力を入れていくとともに、関係諸機関との連携を円滑に進めていく必要がある。</p>	<p>○全校共通の指導(「学習＆生活のルール」)を引き続き行っていくとともに、組織的な指導及び対応を一層強化していくことで、安全・安心の徹底を図る。</p> <p>○「特別の教科 道徳」を校内研究として、組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>○安全・安心に関わる点検・確認・対応・研修等については、マニュアルに沿って適切に実施するとともに、必要に応じて実態に即した改善を図り、教職員間で確実に共有する。</p> <p>○挨拶の指導は、年間を通じて実施し、日常的にすすんで挨拶ができる児童を育成すべく、継続的に指導する。</p> <p>○いじめの未然防止、早期発見・対応に向けて、教職員の人権感覚を磨くとともに、職員夕会を活用して情報共有を図り、組織的な対応を迅速に行っていく。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを核として校内委員会を充実させ、SCやSSの活用や関係諸機関との連携を図るなどして、特別支援教育を一層推進する。</p>	A
健 康 ・ 体 つ く り	<p>○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取組 ・「スポーツチャレンジ」と称して、「的当て」「鬼ごっこ」等を工夫したゲームを中休みに企画し、楽しみながら体力を高める取組を実施した。</p> <p>・ゲストティーチャーを招き、5年生児童を対象とした「出汁」や「イタリア料理」の授業を行い、自国及び他国の文化理解を深める食育を実施した。</p> <p>・ゲストティーチャーを招き、4年生の総合的な学習の時間の取組として、視覚障がいや聴覚障がい等の障がい者理解教育を実施した。</p> <p>○全校縄跳びや縄跳び月間の取組を通して運動の日常化を図り、体力向上への意欲を高めた。</p> <p>○学校医と連携した歯磨き指導やゲストティーチャーを招いた薬物乱用防止教育等を実施し、健康に対する正しい知識や態度を伸長させる取組を実施した。</p>	<p>○学校関係者アンケート(保護者)結果(肯定的評価)は、以下の通りであった。 ・「体育的な活動の充実、保健指導の実施、食育の推進などを通して、児童が健康で健やかな体をつくる取り組みを行っている。」97%</p> <p>○関係者評価委員会では「昔は外遊びをよくしていたが、今はあまりしなくなったので体力が落ちているのではないかと感じる。」とのご意見をいただいた。運動への意欲を高めていく必要がある。</p>	<p>○体育授業の充実や縄跳び月間、スポーツチャレンジ等の取組を通して、児童の運動への意欲向上と基礎体力の向上を図る。</p> <p>○体力テストの結果分析から体育的活動を計画するPDCAサイクルを確立し、児童の実態に即した取組が効率的に実施できるようにする。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育は、体験的学習を充実させ、全体計画・年間指導計画に沿って、「障害者理解」「日本人としての自覚と誇り」を重点として、一層推進する。</p> <p>○歯磨き指導、薬物乱用防止教育など、家庭の協力を得ながら児童が自分の生活を見つめる活動を通して、児童の健康に対する意識を高める。</p>	B
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	<p>○地域人材の協力を得て、新入生の生活支援を充実させたり、複数の学年において保護者・地域の方をゲストティーチャーとした授業を実施したりすることができた。</p> <p>○昨年度の学校関係者アンケート(保護者)に寄せられた意見を生かし、学校便りと学年便りを一体化させ、情報を精選して伝わりやすくなるように改善することができた。</p> <p>○「支援の輪」に登録していただいた保護者の方々の協力を得て、校外学習での見守りや実技を伴う授業での個別支援を充実させることができた。</p> <p>○大型台風接近により本校が避難所になった際には、想定外の出来事であったにも関わらず、地区協議会の方々を中心にして大きな混乱なく避難所運営がなされた。明らかになった課題については、今後改善していく必要がある。</p>	<p>○学校関係者アンケート(保護者)結果(肯定的評価)は、以下の通りであった。 ・「児童に、宿題等の家庭学習にしっかりと取り組ませ、家庭と学校が連携した学習習慣を確立させている。」89% ・「学校日より、安全安心メール、ホームページ、保護者会、授業公開等を通して学校の様子を発信し、保護者・地域の方々との連携を大切にしている。」97% ・「保護者や地域住民等による学習支援組織『支援の輪』や、地域の特色を活かした教材、ゲストティーチャー、体験的な学習等を充実させている。」80%</p> <p>アンケートの自由意見からは、宿題(家庭学習)の取り組み方について悩む保護者の方が多いことが分かった。また、配布されるお便りが多く情報の精選を望む声が、昨年度に引き続き挙がっていた。これを受けて、2月号より学校便りと学年便りの一体化を試行しており、概ね肯定的な評価いただいている。</p> <p>○関係者評価委員会では、「避難所開設を通して、これまで懸案事項だったことも含めて、様々な課題が明らかになった。市とも連携して課題解決を図っていく必要がある」とのご意見をいただいた。</p>	<p>○家庭学習については、分量や難易度等、個に応じた配慮及び支援を保護者と連携しながら行い、各学年に応じた学習習慣の定着を図っていく。</p> <p>○新年度から新たに開設される「地域学校協働本部」について、活動を軌道に乗せるべく、コーディネーターと連携しながら内容を検討し、地域人材を活用した体験的授業を計画したり、児童の健全育成に資する活動を考えたりしていく。</p> <p>○防災に関して、火災や地震だけでなく水害に対する対応等についても検討し、避難訓練計画に入れていく。また、地区協議会等の関係機関と協力しながら、課題解決を図っていく。</p>	B
特 色 あ る 教 育 活 動	<p>○通常の学級と特別支援学級との交流学習を通年で実施することで、多様性尊重への理解促進が図られている。</p> <p>○読書活動の充実を目指して、保護者の方の読み聞かせや地域人材(ゲストティーチャー)による本格的な読み聞かせ集会を実施することができた。しかし、「全国学力・学習状況調査」の「児童質問紙」による「読書が好きか」との問いに対し、肯定的回答をした児童は7割に満たなかった。今後、更に読書活動を推進していく必要がある。</p>	<p>○学校関係者アンケート(保護者)結果(肯定的評価)は、以下の通りであった。 ・「学期ごとに大きな行事(運動会・学芸会・作品展)を毎年実施し、各教科・領域で学んだことを活かし、自他の良さを認める心情を育てている。」97% ・「読書旬間や読書集会、毎週木曜日の朝の読書タイム、保護者による読み聞かせ等を実施し、読書活動を充実させている。」95%</p> <p>○関係者評価委員会では、「家庭で読書する時間が少ないことが、話すことが苦手な子や読書しない子の増加につながっているのではないかと」とのご意見をいただいた。読書活動推進の取組が、児童の日常的な読書活動につながるよう、内容を工夫していく必要がある。</p>	<p>○読書活動の一層の充実を目指し、本校独自の推薦図書「富士見よむよむキッズ60」を改訂するとともに、年間2回の読書旬間の取組を更に工夫改善していく。また、授業での読書指導を細やかに行う。</p> <p>○通常の学級と特別支援学級(かいわ学級)との交流学習を計画的に実施し、多様性を認め合う共生の態度育成に更に努める。</p> <p>○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を進めるとともに、特別支援教室専門員及び特別支援教育コーディネーターを窓口として、巡回指導教員と担任との連携を強化し、巡回指導の効果を上げていく。</p>	B